

令和6年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第3回地域包括支援に関する会議 会議録

1 開催日時

令和7年3月17日(月) 18:30～20:00

2 開催場所

北九州市役所 3F 大集会室(ハイブリッド開催)

3 出席者等

(1) 構成員

石田構成員、伊藤構成員、今村構成員、大丸構成員、寒川構成員、白木構成員、
中村構成員、平野構成員、森野構成員、安田構成員、油布構成員、吉田構成員
和田構成員

(2) 事務局

地域共生社会推進部長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長、介護サービス担当課長、
認知症支援・介護予防課長、長寿社会対策課長、地域リハビリテーション推進課長

4 会議内容

(1) 報告

- | | |
|------------------------|-----|
| ・ サービス・活動事業実施状況について | 資料1 |
| ・ 地域ケア会議の実施状況について | 資料2 |
| ・ 北九州市しあわせ長寿プランの推進について | 資料3 |

(2) 議事

- | | |
|----------------------------------|-----|
| ・ (仮称)テクノケア北九州の開設について | 資料4 |
| ・ 難聴(ヒアリングフレイル)啓発の取組みについて | 資料5 |
| ・ 令和7年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業について | 資料6 |
| ・ 介護予防支援事業所の指定について | 資料7 |

5 会議経過及び発言内容

報告 (3)北九州市しあわせ長寿プランの推進について…資料3

代 表 それでは先ほどアナウンスがありましたように報告 3、北九州市しあわせ長寿プランの
推進について、まず事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 報告（3）について資料3に沿って説明

代 表 ありがとうございます。そうしましたら、構成員、終活支援事業の部分で何か補足ございますか。

構成員 終活における支援のあり方検討会の座長を務めさせていただきました。安心して相談できる窓口を設置することが大きな課題でした。また、先進的な都市の取り組みについても話を伺っていますので、そういった点を取り入れながら、これから北九州市でも検討していきたいと考えています。この点について、少し整理をさせていただきましたので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。以上です。

代 表 ありがとうございます。構成員の皆さん、何かご意見やご質問はございますか。
ところで、この相談員の方についてですが、こういった方を想定されているのでしょうか。

事務局 社会福祉協議会の方が担当していて、今日いらっしゃっている構成員の方のほうが詳しいかもしれませんが、終活の相談員をされているのは、やはり社会福祉士の方などが多いようです。さまざまなケースに対応されているということもあり、現在もそういった方々が活動されていると伺っています。なので、基本的にはそういった方々を中心に、2人ほど配置できればと考えています。

代 表 ありがとうございます。何か補足はありますか。

構成員 補足ではないのですが、権利擁護センターの方で令和2年頃から常設ではない窓口が設置されています。そして、来年度は予算が確保できて、相談員を配置できるかもしれないと伺っています。その相談員の方々は日頃から権利擁護や関連の事業に携わっている職員なので、いろいろとノウハウをお持ちなのではないかと思っています。今はとりあえず、一生懸命準備を進めているところです。

代 表 ありがとうございます。他いかがでしょうか。よろしいですか。
これで報告事項3を終わりとさせていただきます。

報告（1）サービス・活動事業実施状況について…**資料1**

代 表 それでは報告の最初に戻りましてサービス・活動事業実施状況について、事務局の方から説明を行っていただきます。

事務局 報告（1）について資料1に沿って説明

代 表 ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、質問やご意見ございましたらお願いいたします。

構成員 おそらく去年もお聞きしたかもしれませんが、この栄養訪問コースは、何回実施されていますか。

事務局 最高で 5 回までです。

構成員 12 人っていうのは、5 回分の人数ってことですか。トータルの人数ではなくて、延べ人数でもない、ということでしょうか。

事務局 はい、そうです。

代 表 他に何かご意見はございませんか。これでよろしいでしょうか。確認ですが、この数値の多少の減少というのは、大きな問題ではないという解釈で間違いないでしょうか。

事務局 はい。これが 12 月末時点の数字になっていますので大丈夫です。

代 表 はい。わかりました。ありがとうございます。

報告（2）地域ケア会議の実施状況について…資料2

代 表 それでは次に進めさせていただきます、報告 2 地域ケア会議の実施状況について事務局から説明お願いいたします。

事務局 、**構成員** 報告（2）について資料 2 に沿って説明

代 表 ありがとうございます。前半は地域ケア会議の実施状況、後半は社協の活動状況についてご報告ご説明いただきました。構成員の皆様方から質問やご意見ございましたらお願いいたします。

構成員 4 ページについてですが、全体に関わる話になります。今ご説明いただいた 4 ページの 5 番目に、今後の課題として『地域ケア個別会議の効果的な運営方法』が挙げられています。この点に関して、今日はかなり具体的なお話をさせていただきました。少し提案にもなりますが、説明の中で示していただいたように、この会議の機能は、個別課題の解決から資源開発まで幅広くカバーしています。特に今回は、地域課題の発見という観点で、具体的な事例を挙げていただきましたが、非常に重要なポイントに差し掛かっているなど感じています。

結論から申し上げますと、個別課題の解決事例の検討はこれからも延々と続いていくと思い

ます。ですので、少し意図的に、会議の機能に関する課題を意識して会議を進めていかないと、議論が二極化してしまうのではないかと思います。これまで1年、2年と進めてきましたが、その根拠として、介護予防事業を進める中で健康寿命が延び、高齢者の数が増えているという状況があります。とはいえ、加齢による衰えは避けられません。結果として、社会福祉協議会の方がおっしゃっていたような、生活支援サービスへのニーズが具体的に上がってきているのではないかと思います。おそらく関連している部分もあるので、そういった議論も含まれるかと思いますが、効果的な運営方法についてお話しします。もし、この話を長寿を迎えた方々、特に事例の方々が90代前後であることに関連づけるなら、加齢による衰えを生活支援の議論に組み込む形が考えられます。今回の事例を見ると、会議の機能を通じて地域課題の発見やネットワークの構築など、課題解決の流れが繋がっていることを実感しました。この課題発見の重要性を改めて認識させられました。

従って、今後会議を開く際には、どれも大切なテーマですが、会議の機能を意図的に活用していくことが必要だと思います。具体的には、地域課題を意識しながら、後期高齢者、特に高齢化が進んでいる方々の加齢に伴う問題に焦点を当てた議論が求められるのではないのでしょうか。こういった問題は介護予防だけでは防ぎきれないため、生活支援に関する議論を含めて、進め方の方向性を考えることが可能なのか、お尋ねしたいと思います。

代 表 ありがとうございます。効果的な会議の運営にあたって、少しテーマを絞ったり、対象を限定した形のほうがいいのではないかと、というご意見だと思います。事務局の方、いかがでしょうか。

事務局 ご意見、ご提案ありがとうございます。各区では24の地域包括支援センターがそれぞれ会議の運営や進行を担当しているのですが、今日は各区の係長の方々にも会議にオンラインで参加していただいています。この話題については、今後の毎月の会議で協議していきたいと思います。

代 表 ありがとうございます。

構成員 この地域ケア会議についてですが、やはりケアマネジャーさんが地域課題や事例の課題をもとに展開してくださっているのは本当にありがたいと思っています。ただ一方で、今国でもケアマネジャーのシャドーワークという点がとても話題になっています。やはりケアマネジャーが社会資源につながらない状況では、社会資源が不足していることが課題だと思います。地域の課題から、このようにさまざまな社会資源につなげていくことによって、ケアマネジャーのシャドーワークがかなり改善されるのではないかと思います。

私もいろんな地域に行って研修させていただいている中で感じるのですが、北九州では地域包括支援センターが直営であるという点が、最大の強みだと考えています。それ以前に、私たちのシャドーワークがかなり軽減されているという点もあります。このように地域ケア会議がある程度循環していることで、さまざまな課題解決につながっていると考えると、包括が直営

であるということの大きな意義が、ここに集約されているのではないかと思います。ぜひ今後もその方向性で進めていただきたいという要望があります。

そしてもう 1 つ、個別ケア会議の 8 ページにある視力障害の方に関する事例を読むと、この方は網膜色素変性症という難病を抱えています。中途障害である前に難病であるということを見ると、北九州市には難病支援センターがありますので、そういったセンターとの連携や関係性、またそこに相談に行ける社会資源をケアマネジャーが把握しているのかという点について、ぜひ個別ケア会議の中でご提案いただけるとありがたいと思います。以上です。

代 表 ありがとうございます。事務局の方、今のお話はご意見として承ったということによろしいですね。他に何かご意見はございませんでしょうか。もし何かありましたら、最後にでも出していいただければと思います。

議事 (1)(仮称)テクノケア北九州の開設について…資料4

代 表 それでは議事の方に進めさせていただきます。議事の 1 番目(仮称)テクノケア北九州の開設について、事務局からお願いします。

事務局 議事 (1) について資料4に沿って説明

代 表 ありがとうございます。ご意見ございましたらお願いしたいと思います。

構成員 大変時代のニーズに合った取り組みで、しかも試用評価も行っているとのことですが、具体的には地域に出向いて試用評価をされているんですね。今後の計画の中では、その評価結果の報告の出し方についても考えられているのでしょうか。かなり専門的な結果報告になる可能性もあると思います。

そして、今の時代、子世代が親世代の状況を把握しづらいということもありますね。介護ロボットが普及してきてはいますが、テクノロジーに馴染める高齢者とそうでない高齢者に分かれてきているように思います。このような状況を踏まえて、結果報告はどのような形で作られていくのでしょうか。当事者用途として、どのようなイメージをお持ちでしょうか。

事務局 まだイメージの段階ではありますが、これまで事例に関して、どのような形で効果があるのか、その他の関係が絡んでいるのか、検証や生活の中で、使用していく点についても十分に検証できていなかった部分があると思います。今後は訪問などをしっかり行いながら、構成員がおっしゃったような形で、検証を含めてしっかり進めていきたいと思っています。

機器に馴染める方と馴染めない方をうまく区別できるかどうかは、正直まだ何とも言えませんが、先ほど説明したように、ネットワーク会議を別に設けたいと思っています。介護テクノロジーといっても、実際にどのように使えるのかというのは、まだイメージの段階でしかありません。今回、利用者の方々にも関わっていただいて、試験的に使用してもらいながら、良かった

点や課題となった点を踏まえて、それを事例として積み上げていきたいと考えています。

構成員 その辺については、前回と同じような形でモデルが出てくるといいますし、質量評価の両面で通常通り進むのではないかと期待しています。

代 表 その他、何かご意見はございますか。

以前、『すこやか住宅』という冊子を作ったことがあるのですが、その際には、TOTOさんや介護をされている家族の会の方、それからOT(作業療法士)の方など、さまざまな方々が集まって住宅改修の取り組みを行い、それを身体障害から認知症まで対象を広げて進めたことがあります。せっかく推進会議を作られるということなので、ぜひいろいろな視点から検討していただければと思います。

議事 (2)難聴(ヒアリングフレイル)啓発の取組みについて…**資料5**

代 表 それでは続きまして議事の 2 番目、難聴(ヒアリングフレイル)啓発の取組みについて、事務局からお願いします。

事務局 議事 (2) について資料5に沿って説明

代 表 ありがとうございます。いかがでしょうか。ご質問などございましたら、ぜひお聞かせください。

特に何もご意見がないようでしたら、一言だけお話しします。昔、視覚障害のある高齢者の方を対象に調査を行った際、実は聞こえが悪くなると転びやすくなったり、事故に繋がったりするケースが案外多いことが分かりました。ですので、もともと視覚障害がある方に加えて、聞こえにくいというリスクが複合的にある場合は、特に丁寧な対応が必要ではないかと、この資料を見ながら改めて感じました。引き続きよろしくお願いいたします。

議事 (3)令和7年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業について…**資料6**

議事 (4)介護予防事業所の指定について…**資料7**

代 表 では本日の報告・議事は終了になります。